

して利用されている。

## 7. おわりに

今回の調査は天候にも恵まれ、現地の関係諸機関の協力、そして1993年2～3月の予備調査時の収集資料のおかげで順調に進めることができた。この報告が、関係者ならびに同地域に興味のある方々へ少しでも参考になれば幸いである。またフォルモサ州政府、在アルゼンティン日本大使館、JICAアルゼンティン事務所の関係者の方々にも大変お世話になり、この場をかりて御礼申し上げる。

〔参考・引用文献〕 1) アルゼンティン国チャコ地域森林資源調査事前調査 (C/M, S/W) 報告書。国際協力事業団。1993 2) 農林水産省熱帯農業研究センター：熱帯の有用樹種，熱帯林業協会，1978 3) 熱帯植物研究会編：熱帯植物要覧。養賢堂。1984 4) 堀田 満ほか：平凡社。世界有用植物事典。1989 5) Ministerio de Asuntos Agropecuarios y Recursos Naturales：Inventario Forestal Sección Septima. Provincia de Formosa, Argentina. 1988 6) José Santos BILONI：Arboles Autoctonos Argentina Tipografica Editora Argentina. 1990

---

## 新刊紹介

◎ユーカリ属モノグラフ (TEWARI, D.N.: Monograph on *Eucalyptus*. 初版, 1992, 361pp., Surya Publication, Dehra Dun, India. 邦貨 15,000 円)

いろいろな批判はあるが、造林樹種としてユーカリ類が高い評価を得ていることは紛れもない事実であり、これはユーカリ類の高い適応性、高い生長率、多様な用途などによる。ユーカリ属が初めて記載されたのは1770年とされているが、その20年後にはすでにインドに導入され、本格的な造林が開始されたのは1856年とされている。つまりインドには、少なくとも一世紀半に及ぶ経験と蓄積があることになる。本書は、その長い経験も含めて、ユーカリ類についての膨大な情報を、インドの研究・教育会議の議長を務める Dr. TEWARI が収集整理したものである。その構成は、1. まえがき (1～7), 2. 分布と形態 (8～19), 3. 解剖 (20～36), 4. 造林と取り扱い (37～57), 5. 生長 (58～73), 6. 生物生産と養分循環 (74～82), 7. ユーカリ造林の経済 (83～98), 8. 栽培 (99～126), 9. 遺伝と育種 (127～158), 10. ユーカリ類の病気 (159～171), 11. 害虫とその管理 (172～178), 12. ユーカリ材の特性と利用 (179～202), 13. パルプと製紙 (203～238), 14. ユーカリの化学 (239～267), 15. 木材以外の利用 (268～274), 文献 (275～361) で、数多くの表、図、写真を織り込んで、具体的なガイドブックとして役立つように配慮されている。また、地域開発の視点からのユーカリの栽培に関連した最近の業績や、化学的利用も含めた各種の利用法についても論議を加えている。(浅川澄彦)